

受験
番号

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2019 年度

第4回 会社決算書アナリスト試験

問題用紙

(試験時間 1 時間 30 分)

—受験者への注意事項—

1. 試験開始の合図があるまで、問題用紙は開かないでください。
2. 解答は、定められたところに、誤字・脱字のないよう、ていねいに記入してください。
3. 答案の記入にあたっては、黒鉛筆または黒シャープペンを使用してください。
4. 受験番号は、右寄せで記入してください。受験番号を記入していない場合は、採点の対象と
ならない場合があります。

第1問 次の1. から10. の文章について、正しいものには○を、誤っているものには、×を解答欄に記入しなさい。

1. 財務諸表の分析において、最もシンプルな方法として実数分析があるが、この方法は、企業間の比較分析に最も適している方法である。
2. 営業資産営業利益率の計算において、短期借入金の支払利息は、通常、円滑な営業を行うのに必要な費用であるが、この計算には含まれない。
3. コンビニエンスストアにおいて、売上高営業利益率が高まった、つまり良くなったとき、アルバイト店員の待遇を良くしようと時給を高くしたことが原因の一つになる。
4. これまで現金販売をしてきた一般小売業がカード決済を導入すれば、それに見合う売上高の上昇が見込めない場合、売上債権回転率は悪化する。
5. 4. に関して、仕入政策にも変更がないとすると、売上債権対仕入債務比率を低める効果をもたらす。
6. 純資産負債比率と純資産固定負債比率を比較すると、一般的には、純資産負債比率の方が純資産固定負債比率より低くなる（良い数値を示す）。
7. キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローの部には、法人税等の支払額が計上される。
8. フリー・キャッシュ・フロー（FCF）は、営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローを加算（合計）した値であり、借入金の返済や配当金の支払いなど財務活動へ向けられる資金の金額を示している。
9. 配当金支払いの資金繰りを見た場合、支払配当金キャッシュ・フロー比率が高くなればなるほど好ましくないと見られる。
10. 安定配当（1株当たり配当金を一定額に固定化する）政策を採っている企業において、当年度の当期純利益が前年度より減少つまり悪化したとき、配当性向は前年度に較べ高くなる（上昇する）。ただし、会計期間を通じて株式数の変動はないものとする。

第2問

次の<資料>は、M社（スーパーマーケット）の財務諸表であり、あなた（Q君）は、この会社の経理部長である。あなたは、社長からROE（株主資本当期純利益率）を8%にしたいという相談を受けた。これについて、問1から問3に答えなさい。

（解答にあたっての注意事項）

1. 指標について、数値は算出結果のみを解答すること（計算式は不要）。
2. 答は、小数点が出ない場合には、そのまま答え、小数点が出た場合には、最終数値の小数点第2位を四捨五入し、第1位までを解答すること。例えば、算出結果が9.44%となった場合には、「9.4」%、「9.45」回となった場合には、「9.5」回と解答する。
3. マイナスの場合には、数値の前に「△」をつけること。例えば、マイナス9.5%の場合には、「△9.5%」と解答すること。

問1 次の会話の中の①から④の数値を計算しなさい。

問2 次の会話の中の（a）、（b）に数値を入れなさい。

問3 次の会話の中の下線、販売費及び一般管理費に関連して、次のページの四角で掲げた費用のうち、販売費及び一般管理費となる費用の記号をすべて書き入れなさい。

<資料> M社のデータ (解答に関わる情報)

貸借対照表

(単位 千円)

	前期末	期末 (見通し)
資産の部		
現金及び預金	700,000	1,300,000
その他の資産	3,000,000	2,600,000
資産合計	3,700,000	3,900,000
負債の部		
内訳は省略	:	:
負債合計	610,000	600,000
純資産の部		
資本金	1,500,000	1,500,000
資本剰余金	500,000	500,000
利益剰余金	1,091,000	1,301,000
自己株式	△1,000	△1,000
株主資本合計	3,090,000	3,300,000
純資産合計	3,090,000	3,300,000
負債純資産合計	3,700,000	3,900,000

損益計算書 (見通し)

(単位 千円)

売上高	8,000,000
売上原価	5,700,000
売上総利益	2,300,000
販売費及び一般管理費	1,800,000
営業利益	500,000
経常利益	250,000
当期純利益	226,000

あなた 「社長。これが今期の当社の決算の見通しです。参考までに前期の貸借対照表もつけました。」

社 長 「それでは、Q君、当社の業績を総合的に判断する総資産当期純利益率を計算してみようか。
(①) %になるね。景気が停滞している状況としては、良い数値が出ているね。営業の面でも、売上高売上総利益率は (②) %で、ライバルのB社と変わらないし、売上高販売費及び一般管理費率は (③) %で当社の方が良いではないか。」

あなた 「社長。B社の販売費及び一般管理費には、最近の事業拡大による新規店舗の減価償却費も入っていると思いますよ。だから、B社の売上高販売費及び一般管理費は当社より悪いのだと思います。」

社 長 「ところで、最近、ROE 8%を目標とすべきだという風潮があるよね。だから、ROE (株主資本当期純利益率) も計算してみようか。これは (④) %だよ。なんとかならんかね。」

あなた 「業績を上げるのは営業部の仕事ですが、今更、間に合いませんよね。・・・<しばらく考えて>・・・それなら、うちの会社の株を買いませんか。貸借対照表を見て下さい。現金及び預金が1,300,000千円ありますよね。このうち、800,000千円を使い、当社の株式を買い、自己株式とすれば、期末の株主資本は (a)千円となり、損益計算書数値がこのまま保たれるとすると、ROEが (b) %になりますよ。ただ、この現金及び預金は、将来の出店つまり事業拡大のために留保した資金だったはずですよ。社長、これで良いのですね。経営方針の変更は社長の決裁事項です。また、先程、計算したように当社の業績は悪くないので、自社株購入が割高になることも、承知しておいて下さいね。」

社 長 「うーん。会社事業の発展つまりは従業員を取るか、株主を取るかの選択が迫られているんだね。」

- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| ア. 本社社員の給料 | イ. 売買のために保有している有価証券の売却損失 |
| ウ. 店舗の火災保険料 | |
| エ. 台風による水害損失のうち火災保険で補填されなかった損失 | |
| オ. 従業員の厚生年金保険料のうちの会社負担分 | |
| カ. 遊休の土地を利用し収益を上げている駐車場の電気代 | |
| キ. 商品保管用倉庫の電気代 | |
| ク. 特売宣伝ビラの費用 | |
| ケ. 法人税の支払い額 | |

第3問

Pさんは、今度、会社決算書アナリスト試験を受けるために、財務諸表分析の勉強をしている。このことを聞いたお父さんから、株式投資の相談を受けた。お父さんは、T社に営業担当として長く勤務し、会社の業績が良かったときに支給された臨時のボーナスで、2014年に購入した自社の株式を、100株（取得価格：1株当たり2,500円、計250,000円）保有している。お父さんは近く定年退職を迎え、この株をどのようにしたら良いのかを考えている。これについて、問1から問3に答えなさい。

問1 次の会話の中の①と②の数値を計算しなさい。

問2 次の会話の中の[ア]と[イ]に入る適切な語句を書き入れなさい。

問3 次の会話の中の< >の(1)から(3)に入る適切な語句を選択し、その記号(a, b)を書きなさい。

(解答にあたっての注意事項)

1. 指標について、数値は算出結果のみを解答すること（計算式は不要）。
2. 答は、小数点が出ない場合には、そのまま答え、小数点が出た場合には、最終数値の小数点第2位を四捨五入し、第1位までを解答すること。例えば、算出結果が9.44%となった場合には、「9.4」%、「9.45」回となった場合には、「9.5」回と解答する。
3. マイナスの場合には、数値の前に「△」をつけること。例えば、マイナス9.5%の場合には、「△9.5%」と解答すること。

お父さん 「Pよ。新聞の株式欄を見ていると、わが社の株価は値上がりしているよ。この点では、買っておいで良かったと思っているのだが、お父さんの実感としては、営業成績は上がっていないんだよな。」

Pさん 「お父さんは自分の会社の状況を知らないの？ 株を持っているのなら、会社から株主総会の通知と一緒に決算報告書が送られてくるでしょう。」

お父さん 「私は営業一筋で、会計学や簿記を勉強したことがないから、送られてきても、ゴミ箱へポイだったんだよ。」

Pさん 「それじゃ。一緒に有価証券報告書を見てみようよ。会社を知るのには、これが一番だよ。その情報がこの<資料>だよ。」

<資料> T社のデータ：有価証券報告書「第1【企業の概況】1【主要な経営指標等の推移】」から一部抜粋

回次	第〇1期	第〇4期	第〇5期
決算年月	2014年3月期	2017年3月期	2018年3月期
売上高 (百万円)	172,143	146,858	146,272
経常利益 (百万円)	15,706	10,766	10,541
当期純利益 (百万円)	9,385	6,277	4,301
資本金 (百万円)	16,533	16,533	16,533
1株当たり純資産 (BPS) (円)	3,919.08	4,247.57	4,297.60
1株当たり配当 (DPS) (円)	60	80	80
1株当たり当期純利益 (EPS) (円)	189.51	132.49	94.11
株価収益率 (PER) (倍)	12.6	21.4	38.6
配当性向 (%)	31.7	60.4	85

P さん 「お父さんは投資家だから、まず、お父さんの株の配当利回りを計算してみようよ。お父さんは、2014年に、1株当たり、2,500円で投資しているので、2014年は(①)%だったよね。その投資が今、2018年には(②)%になっているから、現在の低金利の下では、良い投資だよ。ただ、業績が悪くなっているようだというお父さんの話を聞くと、1株当たり当期純利益に対する1株当たり配当金の割合を示す[ア]が気になるね。これは、(1) < a. 高く b. 低く > になっているね。ということは、会社は配当を重視している株主のことを考えていることになるね。」

お父さん 「でもなあー。私の営業の実感からは、これで良いのかなあー。」

P さん 「確かに、売上高も経常利益も当期純利益も下がっているよね。それでは、市場の評価である株価との関係をも見てみようよ。株価と1株当たり当期純利益の関係を示す[イ]を見てみよう。これは、一貫して(2) < a. 上がっている b. 下がっている > ね。ということは、(3) < a. 割高 b. 割安 > で、売り時とも言えるね。一方で、市場が会社の将来に期待しているとも言えるね。[ア]も高いので、保有し続ける手もあるね。お父さん、会社の将来計画について、何か聞いていない？」

お父さん 「いや、私は営業一筋だから。」

P さん 「それじゃ、もう一度、有価証券報告書を見てみよう。ここに面白い記述があるよ。これまで会社は国内で若者向けの商品開発で成長してきたが、少子高齢化時代になり国内市場での成長が望めないで、海外展開を図ろうとしているという記述だよ。これに市場が期待しているのかな。」

お父さん 「そう言えば、そんな話を聞いた気もするよ。お父さんは、語学をあまり勉強していなかったから、定年が良い潮時だったかもしれないね。今後は、投資家として会社の後輩の活躍に期待しようと思うよ。今日は、色々、教えてくれて、ありがとう。将来のために、決算書アナリストの試験、頑張ってくれよ。期待しているよ。」

第4問は、次のページへ

第4問

＜資料＞に示した財務諸表（B株式会社：小売業、一部、自社ブランド商品も製造）により、安全性を評価する代表的な指標である① 総資産負債比率、② 流動比率、③ 当座比率、④ 固定長期適合率 を計算しなさい。これを受けて、問1と問2に答えなさい。なお、会計期間は、4月1日に始まり翌年3月31日に終了する1年間である。また、資産の部における流動資産のうち、「未収入金」は未確定の金額であり、当座資産に含めないものとする。

（解答にあたっての注意事項）

1. 指標について、数値は算出結果のみを解答すること（計算式は不要）。
2. 答は、小数点が出ない場合には、そのまま答え、小数点が出た場合には、最終数値の小数点第2位を四捨五入し、第1位までを解答すること。例えば、算出結果が9.44%となった場合には、「9.4」%、「9.45」回となった場合には、「9.5」回と解答する。
3. マイナスの場合には、数値の前に「△」をつけること。例えば、マイナス9.5%の場合には、「△9.5%」と解答すること。

問1 (1) B社の短期の安全性の判断について、次の文章の[]の中に当てはまる語句の記号を解答欄に記入しなさい。

短期的安全性を示す指標の計算の結果、B社の短期的な安全性は、前期と比べて、[ア. 良くなっている イ. 変わらない ウ. 悪くなっている]。

(2) 上の状況に至った直接的な原因として、この企業の経営者が取ったと考えられる政策について、前期と当期の貸借対照表項目を較べてみて、解答用紙中の四角で囲んだ選択肢のうちから最も適切なものの記号（ア. ～ オ.）を解答欄に記入しなさい。

問2 (1) B社の構造的・長期的安全性の判断について、次の文章の[]の中に当てはまる語句の記号を解答欄に記入しなさい。

構造的・長期的安全性を示す指標の計算の結果、B社の構造的・長期的な安全性は、前期と比べて、[ア. 良くなっている イ. 変わらない ウ. 悪くなっている]。

(2) 上の状況に至った直接的な原因として、この企業の経営者が取ったと考えられる政策について、前期と当期の貸借対照表項目を較べてみて、解答用紙中の四角で囲んだ選択肢のうちから最も適切なものの記号（ア. ～ オ.）を解答欄に記入しなさい。

<資料>

B社の要約貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度		
	(平成×8年3月31日)	(平成×9年3月31日)	前連結会計年度	当連結会計年度
			(平成×8年3月31日)	(平成×9年3月31日)
資産の部			負債の部	
流動資産			流動負債	
現金及び預金	30,560	19,852	支払手形及び買掛金	39,571 33,300
受取手形及び売掛金	36,704	45,859	電子記録債務	15,616 15,344
有価証券	10,200	2,000	短期借入金	10,615 200
商品及び製品	12,119	8,163	1年内返済予定の長期借入金	1,680 650
貯蔵品	120	191	未払金	6,971 895
未成工事支出金	93	96	未払法人税等	2,142 1,709
未収入金	8,469	5,365	未払消費税等	192 856
未収消費税等	604	33	賞与引当金	302 456
繰延税金資産	1,207	1,055	販売促進引当金	443 484
その他	948	1,105	返品調整引当金	20 35
貸倒引当金	△ 185	△ 186	資産除去債務	59 46
流動資産合計	100,839	83,533	その他	2,106 1,695
固定資産			流動負債合計	79,717 55,670
有形固定資産			固定負債	
建物及び構築物	19,885	19,885	長期借入金	15,307 225
減価償却累計額	△ 3,484	△ 4,293	退職給付にかかる負債	2,304 2,832
建物及び構築物（純額）	16,401	15,592	リース債務	6,495 4,591
機械装置及び運搬具	5,186	5,182	賞与引当金	107 60
減価償却累計額	△ 2,126	△ 2,569	役員賞与引当金	88 2
機械装置及び運搬具（純額）	3,060	2,613	資産除去債務	1,237 1,470
土地	6,543	6,543	その他	639 690
リース資産	8,922	7,101	固定負債合計	26,177 9,870
減価償却累計額	△ 1,980	△ 2,038	負債合計	105,894 65,540
リース資産（純額）	6,942	5,063	純資産の部	
その他	3,382	2,763	株主資本	
減価償却累計額	△ 2,435	△ 2,599	資本金	21,189 21,189
その他（純額）	947	164	資本剰余金	23,669 23,669
建設仮勘定	215	215	利益剰余金	19,399 26,650
有形固定資産合計	34,108	30,190	自己株式	△ 10,000 △ 4,500
無形固定資産			株主資本合計	54,257 67,008
ソフトウェア	3,976	4,430	その他の包括利益累計額	
ソフトウェア仮勘定	562	901	その他有価証券評価差額金	1 2
のれん	3,519	2,812	繰延ヘッジ損益	△ 19 △ 2
その他	10	11	為替換算調整勘定	26 20
無形固定資産合計	8,067	8,154	退職給付にかかる調整累計額	△ 89 △ 74
投資その他の資産			その他の包括利益累計額合計	△ 81 △ 54
投資有価証券	11,639	2,499	新株予約権	25 17
長期前払費用	184	173	非支配株主持分	119 154
差入保証金	3,706	4,324	純資産合計	54,320 67,125
繰延税金資産	1,668	3,790	負債純資産合計	160,214 132,665
その他	123	79		
貸倒引当金	△ 120	△ 77		
投資その他の資産合計	17,200	10,788		
固定資産合計	59,375	49,132		
資産合計	160,214	132,665		

※「企業会計基準第28号」により、繰延税金資産は全て投資その他の資産の部に計上されることになった。ただし、今回の試験の指標の計算においては、公表貸借対照表を使用しているため、このまま、一部、繰延税金資産を流動資産の部に入れて計算すること。

